

2025年問題とは？

高齢化が進み課題が山積する日本。
何とか知恵を絞って対策を練らなければならない。



川崎医科大学小児科学講座
主任教授 **尾内一信**

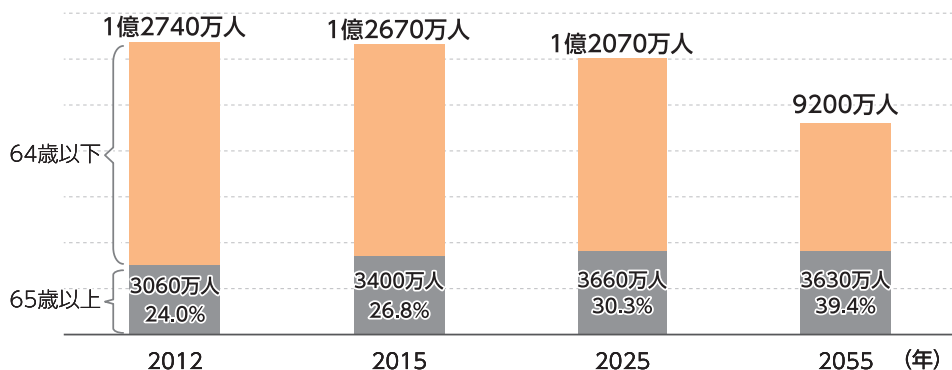
「超・超高齢社会」の到来

人口が増え街に人があふれ、たくさんの子どもたちが教室にぎゅうぎゅう詰めで授業を受けた、元気のある右肩上がりの古き良き日本は2度と戻らないようだ。人口の20%が「後期高齢者」になり、単純労働に就くのは外国人と移民、あるいはロボット。太古の昔から右肩上がりに人口が増えてきた日本の常識から大きく価値観が変化する時代となった。先祖代々の土地神話は根底から覆る。人口が増えていた時代は、平均すると先祖代々の土地は必ず価値が上がったものだが、先祖代々の土地をもっといても人口が減り続ければどんどんその価値が下がっていく。今まで

自信をもっていた医療と介護の安心も根底から覆る。増えていく空席を、言葉の通じぬ人々やロボットが埋めていく。働く世代が減りカネも絆も失った私たち日本人は、今後どうなるのか。2025年の日本は、団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、世界でも人類がまだ経験したことのない「超・超高齢社会」を迎える。これが「2025年問題」である(グラフ)。

人口動態のデータに基づくと、これから10年間で日本の人口は700万人減ると予想されている。15～64歳の生産年齢人口が7千万人まで落ち込む一方で、65歳以上の人口は3500万人を突破する。私も60歳を

グラフ 今後の高齢者人口の見通し



出所：厚生労働省の資料を元に日外協作成